

【まちづくり事例集】活動事例紹介 大学別一覧

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
1 京都大学	安心安全(防災・防火・災害対策、交通安全)	大学と童仙房地域と協働で『新しい学びの空間』を創り出す活動	野殿童仙房生涯学習推進委員会 京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター	京都府相楽郡南山城村野殿・童仙房地域(活動拠点:旧野殿童仙房小学校)	京都府唯一の「村」である童仙房で、廃校になった小学校を有効利用するというきっかけから、地域と大学の交流によって生まれる『新しい学びの空間』を創り出すことを目指して活動しています。生活における様々な問題について、暮らす人々自身が学べる場となり、大学にとっても生涯教育理念の実践の場となっています。暮らす人々と協働で問題解決のため取り組むことで生活と研究が融合をする空間づくりを目指しています。	地域と大学が共同で知恵を出し合うイベントやワークショップを行っています。今年度は、中山間地が震度5～6の地震に襲われた場合の課題をテーマに地域について学び、意見交流を行う「減災の集い」と、実際に地域の現場で地域特有の地質・地形について野外観察や標本採集を通して理解を深めるために、「大人と子どもの地学教室」を開催しました。	参加された方から「この地域に密着した話題で、参加者が身近に感じたいと思います。他人事でなく、自分のこととして感じられるように進めてくださることがとてもよかったです」(アンケート調査)などの声が寄せられています。テーマを介して、地域の方たちが実際に集って学び、感じる経験を通して様々な人のつながりが生まれ、知識が得られる以上の効果がありました。	http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/collabo
2 京都大学	保健・福祉・健康	地域に開かれた「こころ」の相談活動(カウンセリング・プレイセラピー)	京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター心理教育相談室		「心理教育相談室」では、社会に開かれた相談室として、さまざまなこころの悩み・症状をもつ方々のお力になるために、心理教育相談活動を行っています。当相談室は長い歴史と多くの活動実績を持ち、すでに広く市民の方々や他の教育機関・医療機関等にも定着しています。	ご自分のことやご家族のことなどについてのさまざまな悩みや症状を抱えて来談される方々に、カウンセリングやプレイセラピー(遊戯療法)を行い、一緒にそれぞれの問題を乗り越えていく道を探ります。教員の指導のもとに、基本的には大学院生が担当しています。	来談される方々がそれぞれの問題を乗り越えていく過程をサポートするべく、ここまで相談活動を積み重ねてきました。また当相談室は大学院生の訓練・教育機関でもあり、ここで訓練を受けた院生が他の場所でもこころの相談活動に携わることで、広く社会に対して貢献してきました。	http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/aboutus/soudan/
3 京都大学	教育	Winter Collaboration京大×南陽～まちづくりをあなたと～	京都大学地域連携教育研究推進ユニット(京都大学 COC事業事務局)、「京都のまちづくり—文化・科学の交流と地域活性—(全学共通科目[地域交流]・COCOLO域いきよし授業科目)」	けいはんな学研都市	当該全学共通科目は京都府下のまちづくりについて現地調査やレポート作成を通じて学ぶCOCOLO域いきよし科目の一つである。対象とする地域ごとに学生は小グループを形成し、京都府南部を対象とするグループは京都府立南陽高校とのスカイプでのゼミを通じ、学研都市と過疎地域の2つの側面を持つ南部の課題について後期授業期間を通じて理解を深めてきた。	本ユニットと南陽高校との共催によりシンポジウムを実施した。シンポジウムには大学生・高校生のほか地域住民を招き、京都府副知事の講演、南陽高校サイエンスリサーチ科の生徒の実践発表、ワールドカフェ形式でのワークショップを開催した。本学の学生(「京都のまちづくり」受講者)もワールドカフェに参加し、地域住民とは異なる外部の視点に加わった。	本活動を通じて、参加した学生は京都府南部地域における課題についてより詳細に理解することができた。また、南陽高校生との交流によって学生という立場でのまちづくりへの参画の方法についても学んでいる。また、地域に対しても、南陽高校生には本学学生との交流機会を提供できたほか、地域住民にはワールドカフェという自由闊達な議論の場に参加してもらうことができた。	https://www.coc.kyoto-u.ac.jp/event/view/14 https://www.facebook.com/coc.kyoto.univ/?ref=aymt_homepage_panel
4 京都教育大学	環境・エネルギー、景観、美化活動	大岩山周辺(伏見区)での環境保全活動	LactPren (京都教育大学の学生団体)	大岩山周辺(伏見区)	京都教育大学の東に位置する大岩山は、以前から産業廃棄物やごみの不法投棄や竹林の荒廃が大きな問題となっていた。この山を「伏見の里山」として復活させて地域の人々の憩いの場所にしたという目的で活動を始め、それを継続している。	平成20年から(LactPrenと命名されたのは平成22年から)不法に投棄されたゴミの回収、山頂展望台の建設と整備(雑木伐採や花壇の整備など)、道路の整備(新たな遊歩道の建設や竹柵設置)、荒廃竹林の整備、ため池の整備などの環境整備活動を進めている。	・大岩山の美観が回復し、遊歩道や山頂展望台の利用者が増えた。 ・地域住民、諸団体、行政との連携が進んだ。 ・ゴミの不法投棄や竹林の荒廃が後を絶たないため、今後も活動を続けていきたい。	
5 京都工芸繊維大学	産業・観光	グラフィックデザインの魅力と和東町の魅力をアピール	デザイン・建築学系 中野仁人教授研究室、阪田弘一准教授研究室	京都府和東町	和東町の茶畑の風景は、山城地域を代表する生業景観です。和東町では、景観計画・景観条例の策定を見据えた中長期的な計画、構想を目指しており、「茶源郷 和東」をコンセプトに景観や文化財を活用したまちづくりを支援しています。	中野研究室では、デザインによるビジュアルな魅力発信に協力しています。地元的女性達が企画した地元産品のパッケージデザインや「和東茶・歴史・景観」をキーワードにして茶業を紹介した観光推進パンフレットを作成しました。阪田研究室では、住民意識の意気形成のため、アンケート調査やワークショップを行っています。	パンフレットの作成では、写真を大きく使って和東町の魅力をアピールしました。和東町の観光施設や京都市内の総合観光案内所等で配布され、好評を得ています。景観計画制定の支援では、生業景観である茶畑を維持するため、今後を支える子どもたちの意見も反映できるように様々なワークショップを重ねていきます。	http://www.coc.jp/report/1311/ http://www.coc.jp/report/829/ http://www.coc.jp/report/768/
6 京都工芸繊維大学	その他	3町合併後の公共施設を見直す	デザイン・建築学系 鈴木克彦教授研究室、角田暁治准教授研究室、高木真人准教授研究室	京都府与謝野町	与謝野町は、2006年に加悦町、岩滝町、野田川町の3町が合併して誕生しました。これからの時代にふさわしい公共施設のあり方を検討するにあたり、本学に依頼があり、新しい使い方を見据えた公共施設の見直しに協力しています。	研究室の専門により、機能によってグルーピングされた197の各施設を学生が一つひとつ調査しました。担当者にヒアリングし、施設の特徴を考えながら、現状を分析しました。地元では気づきにくい町の魅力を発見したり、異なる部局で管理されている施設の連携を提案するなど、様々な課題に学生の視点が役立っています。	2015年9月に「与謝野町公共施設白書」ができあがりました。今後は、この資料をもとに住民の皆さんと公共施設のあり方を考えていきます。住民参加の仕組みを考えたワークショップを開催するなど、地道な活動が続きます。行政の枠にとらわれない学生ならではの発想を生かしながら、再投資計画に協力していきます。	http://www.coc.jp/report/2543/ http://www.coc.jp/report/2170/ http://www.coc.jp/report/1407/
7 京都工芸繊維大学	文化	若冲をテーマにしたアートイベントで錦市場を盛り上げる	デザイン・建築学系 中野仁人教授研究室、阪田弘一准教授研究室	京都市中京区	伊藤若冲が錦市場の出身であることを、地元住民でさえも十分に知らないという状況でした。若冲をテーマにしたアートイベントを毎年秋に開催し、錦市場をアピールすることで、集客だけではなく地元住民の意識を高めることも目的の一つとしています。	中野研究室では、若冲の絵をもとにしたタペストリーを学生が描き、アーケード上部に十数メートルに及ぶインスタレーションを制作・設置しています。阪田研究室では、期間中に空き店舗を特設ブースとして改装し、中野研究室の学生がお店一軒一軒と相談しながら作成したオリジナルグッズ(てぬぐいなど)を販売しています。	期間中は、錦市場に若冲のモチーフがあふれ、にぎわいをつくり出すと共に商店街の結束を強め、文化的価値を高めるきっかけになっています。夏の祇園祭神輿渡御や初冬の鍋づくしなど他のイベントでも学生が参加し、交流が深まっています。	http://www.coc.jp/report/1097/ http://www.coc.jp/report/613/
8 京都市立芸術大学	教育	カザラックコンサート(本学近くの桂坂小学校他で毎年9月に開催。名称は学区名の「かつらさか」を逆さ読みしカザラックコンサートと命名している。長く継続している取組であり、平成27年には第23回目を迎えた。)	音楽学部学生有志によるオーケストラ、指揮専攻担当教授、桂坂小学校PTAの連携	桂坂小学校(京都市西京区御陵大枝山町二丁目1-52)での演奏をメインとしているが、カザラックコンサートのメンバーを中心に他府県の学校でも演奏を行う演奏旅行を毎年実施している。	公立大学として教育成果を社会に還元していくことは重要な使命であると考えており、小学校で小学生やPTAの方々と一緒に演奏するなど地域と連携し、音楽を通じた地域社会への貢献に努めている。	音楽学部学生有志が、小学生やPTAと共に演奏を行っている。また、平成20年頃からは、子ども達が音楽に、より親しみ楽しく勉強できるよう、演奏以外にも楽器の紹介や指揮者体験など、学生が自ら考え、活動を行っている。	カザラックコンサートにより、地域の様々な年代の方々と幅広い交流ができたことにより、学生が学びを得ることができたことはもとより、普段はオーケストラと関わる機会が少ない小学生も、より音楽が親しみやすいものとなったと好評である。また、地域の特別支援学校や各種団体からの演奏依頼が増えたほか、本学美術学部への協力依頼など、公立大学として教育成果の社会還元や地域貢献等を行うことができ、本学全体に対して良い影響があった。	
9 京都市立芸術大学	その他	「西京魅力探訪」京都市西京地域の魅力を紹介した全てが手書きの壁新聞	本学美術学部デザイン科ビジュアル・デザイン専攻4回生、西京区役所、各学区自治連合会	京都市西京区17学区・地域	西京区役所との協働のもと、地域コミュニティを活性化することを目的に、地域の魅力を発信する取組として、本学学生が地域住民の方々への取材を通じて、西京区全域の壁新聞を作成した。	平成22年から、本学美術学部デザイン科ビジュアル・デザイン専攻の学生5～6人でチームを組み、各学区自治連合会役員等から地域の歴史や特色について聞き取り、手書きの壁新聞で地域の魅力を表現した。平成26年度までに17学区・地域の新聞を作成し、区役所・支所等で展示するとともに当該学区民にはタブロイド判に縮小し全戸配布した。	新しく転入された地域のことをあまり御存知でない住民の方に壁新聞を御覧いただき、地域の魅力を知ってもらい、自治会活動に積極的に参加していただく契機となった。また、学生にとっても、地域の方を取材し、自分の視点で壁新聞を作成するという学内では体験できない貴重な経験となった。	西京区役所ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/nisikyoo/page/0000118604.html
10 京都市立芸術大学	教育	京都市立境谷小学校レジデンス 芸術家を一定期間ある土地に招き、その土地に滞在しながら作品制作を行うアーティスト・イン・レジデンスにちなんで命名。	本学教員、本学美術学部・研究科在学学生及び卒業生、境谷小学校教員及び生徒	京都市立境谷小学校(京都市西京区大原野西境谷町三丁目5)	境谷小学校は、児童数が減少し300名に満たない小規模校であるが、これまでも食育や環境教育に取り組んでおられ、これらを芸術分野にも広げたいという希望を持っておられた。また、本学としても、小学生、大学生が共に学習できる持続可能な場を創造したいとの希望を持っていたことから、両校の目的が一致し、他では得られない持続(継続)可能な芸術活動の場として、小学校での作品制作を行っている。	平成23年から本学の卒業生や在学学生が、京都市立境谷小学校の空き教室をアトリエにして芸術作品を制作し、日常的に児童・生徒と交流を行っている。また、定期的にアート体験ができるワークショップや児童と芸術作家が共同で作品展等も開催している。なお、作品展には、地域の文化サークルも参加するなど、地域連携も広がりを見せている。	小学校からは、①物の見方・捉え方、発想のユニークさや豊かさに出会える、②技術の高い指導を受けられる、③土曜学習塾等で多様な企画ができる等の評価をいただいている。大学としては、芸術家と社会がつながる良い機会になっていると考えている。	京都市立芸術大学ホームページ http://www.kcua.ac.jp/event/20150218_sakaidanisoyogakko-residence/

【まちづくり事例集】活動事例紹介 大学別一覧

	大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
11	京都医療科学大学	安心安全(防災・防火・災害対策、交通安全)	南丹市における環境放射線測定等に関する調査・研究／南丹市総合防災訓練参加	京都医療科学大学 医療科学部 診療放射線技術学科	京都府南丹市	地域における環境放射線測定等に関する調査・研究を通じ学生に測定技術を習得させるとともに、自然環境における放射線量、放射線量の分布を調査し、南丹市の防災計画の基礎データとして利用する。また、測定において得たデータにより環境放射線量マップを作成し南丹市総合防災訓練などの場においても展示し、市民に公開するとともに緊急モニタリング訓練や可搬型放射線量測定装置を用いて測定の実演を行う。	放射線という特殊性に鑑み、本学の専門分野を活かし、一連の測定によって得られたデータを活用して、理解しやすい方法を以て、地元市民などに情報提供周知し、あるいは研究等の成果を地域防災等の強化の為に有効活用する。	自然界に存在する放射線を測定することにより、自然界にある放射線が身近な存在であるということが理解できる。また、総合防災訓練において将来活躍する医療現場での自身の姿を描くことができ、学んできた医療技術の専門的な観点から、医療現場で活躍される京都府放射線技師会の先輩方と共に、地域貢献の一躍を担うことが出来ている。	http://www.kyoto-msec.jp/relation/detail.php?id=650
12	京都外国語大学・京都外国語短期大学	教育	English Summer School: 本学の教育的資源をいかした近隣児童たちへの支援	大学内組織と有志の学生	山ノ内小学校学区	English Summer School 小学校の英語必修化に伴います英語力が重要になってくる。そのような背景のもと外国語大学の強みをいかした日本人が特に苦手とする「英語の発音」に焦点を当てた講座を開講。	English Summer School 京都外大生が先生となり教材も学生自らが作成し、「英語」に親しんでもらいながら、基本的な発音をマスターしていく。最終日には父母の方に学んできた成果を参観してもらっている。	活動を通じて指導することの難しさを実感することはもちろんではあるが、参加学生も一緒に楽しみながら成長できたことである。また地域活動を盛んにすることで学生と地域児童や保護者の間で顔見知りの関係を築くことができ、そこからさらなる地域交流輪が広がっていき相互に良い効果が生まれている。	
13	京都外国語大学・京都外国語短期大学	教育	夏休みスポーツ教室: 近隣小学校児童とのスポーツを通じた交流	体育会系クラブ	山ノ内小学校学区	スポーツ教室 開かれた学校づくりの一環として、地域の子どもたちに本学の施設を利用して、体育会系クラブ所属の学生がスポーツを指導し、豊かなスポーツライフ実現への一端を担うことを目的とする。	夏休みスポーツ教室 体育会系の学生クラブ団体が主となり、「サッカー」「テニス」「バドミントン」「バレーボール」等のスポーツを数日にわたり各クラブ所属の学生が小学生に指導をおこないまた一緒にゲームをし、スポーツ体験を通してスポーツの楽しさを実感させる。	活動を通じて指導することの難しさを実感することはもちろんではあるが、参加学生も一緒に楽しみながら成長できたことである。また地域活動を盛んにすることで学生と地域児童や保護者の間で顔見知りの関係を築くことができ、そこからさらなる地域交流輪が広がっていき相互に良い効果が生まれている。	
14	京都学園大学	産業・観光	特産物を考える会による地域特産物の創生	バイオ環境学部 食農学科 農産生産学研究室	本学のキャンパスを中心とした亀岡市域	最高峰の土、水、環境条件を備え、京野菜の里として高級野菜を供給してきた亀岡市であるが、農業従事者の高齢化が進み、産業としての農業が危機に直面している。	本学で、他には無い京野菜を開発するとともに、地元農家に特産物を考える会という、農業生産者の協力組織の結成を導いた。これにより、一気に特産物として市場に出回らせることが出来る。さらに、年に数回の勉強会を開催することによって、全体的な栽培技術の向上と、品質保全を可能にしている。また、学生が実際の農業を体験する機会にも繋がる。	産業振興と学生の社会体験の場の提供という意味があった。この活動によって、地元農家が元気になるとともに、大学が地元に存在する意義を感じていただけるようになった。	http://www.kyotogakuen.ac.jp/info/9316.html
15	京都華頂大学・華頂短期大学	その他	地域活性化学生プロジェクト	京都華頂大学・華頂短期大学 地域発展活性化センター・学生参画運営センター	京都府内	2014年に、当時地域連携活動に参加しているクラブや学生グループなどが穏やかなつながりを持ちながら、情報交換や交流、広報活動に協働して取り組むことを目的に結成しました。結成を契機に、他大学の地域貢献活動グループとの交流を図るなど、活動の幅も広がり、自分たちの活動の位置付けなども確認できるようになりました。	浄土宗の社会福祉推進活動と連携し、宗門校の社会連携活動の報告・交流会に参加しています。この報告会への参加のため、プロジェクト構成団体の代表者が集まり、色々な意見交換をすることで、互いの活動内容を理解し、大学としての社会貢献活動のあり方を見直す絶好の機会になっています。また、2015年から「ネットワークニュース」の発行を開始しました。	現在プロジェクトには6つのグループが参加していますが、地域貢献や地域活性化をキーワードに集まり、学生会や大学事務局の支援をいただきながら連携を図ることで、自分達の活動を客観的に評価することができ、社会貢献活動を自己満足に終わらせることなく、互いの成長につながるような活動にするための方法などについても考えるようになりました。	
16	京都華頂大学・華頂短期大学	保健・福祉・健康	学生の学びを地域で生かす取組	華頂短期大学 介護学科	京都市東山区	・様々な地域課題に対して大学の知恵を活用し、コミュニティの中核的存在として地域の変化と発見に寄与する。 ・「介護」について様々な角度から学んだ学生が、習得した知識や技術を地域活動を通じて実践することで、新たな気づきやコミュニケーション能力の向上を図る。	華頂短期大学介護学科の1・2年生の学生が、数年前から教員と協働してゼミの時間などを利用して様々な地域連携活動を実施しています。 ①華頂サロン・・・大学の近くにある古川町商店街の空き店舗を利用して、地域の方々とのコミュニケーションやハンドマッサージを実践 ②古川町商店街門掃き隊・・・ゼミで交代しながら商店街を定期的に清掃 ・東山区民ふれあい広場への参加・・・介護学科にてブース出展し、タクティールケア等を実践	各活動への学生の参加の動機は様々だったが、大学の授業の場から離れて仲間や友人、大学の教職員と一体となって催しに参加したことで、一人ひとりが何らかの変化や学びを実感できた。「地域への貢献」と「私たち学生の学び」を同時に達成でき、有意義であった。	
17	京都華頂大学・華頂短期大学	教育	子供たちと学生との長期的な交流事業	京都華頂大学・華頂短期大学 学生参画運営センター	京都府宮津市	宮津市内で地域の子供活動に取り組むクラブや公民館から、「長期的に交流できるボランティア学生を探している」という情報が本学教員を通じて入ったため、地域の方々や相談しながら、「学生と遊んで楽しかった」というだけでなく、子供たちが「新しく知ること、学ぶことが楽しい」と実感できるような交流を実践しています。	夏休み、冬休み、春休みをメインに、宮津市の吉津地区、養老地区を訪問し、人間知恵の輪やシャボン玉づくり、門松作りなどを子供たちと一緒に楽しんでいます。門松作りでは、「なぜ門松を飾るのか」や「おせち料理の意味」などについて学生が紙芝居を作って発表したり、交流後には、一人ひとりに手紙と写真を送って次回の交流につながるようになっています。	参加している学生の多くが、将来は小学校や幼稚園の先生を目指しており、交流を通じて子供たちの様々な側面を直接感じ取ることができることにも、地域の方々や子供たちの成長を見守り、支援することの大切さを学ぶことができる大変貴重な機会になっています。こうした交流を長く続けながら、多様な子育て、教育のあり方を学んでいきたいと考えています。	
18	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部	環境・エネルギー、ギン、景観、美化活動	鹿肉大作戦～地域とつながるおもしろ活動～	ライフデザイン学科 京しかミーツ	京都市右京区	右京区京北町で鹿による森林や農作物への被害が深刻化していることを知り、右京区の鹿被害対策プロジェクト「もみじプロジェクト」に賛同。捕獲された鹿の有効活用、鹿肉の普及を目指すとともに、鹿被害の背景にある環境問題や自然と動物との共生についても関心をもってもらえるよう活動している。	月1回の勉強会を実施し、環境問題への理解を深めるとともに、鹿肉を使った料理のレシピの開発、試作を行っている。また、一般の方に鹿被害の実態と鹿肉を食べる理由を伝え、鹿肉のおいしさや鹿肉の活用方法を知ってもらうため、試食会や地域イベントでの鹿肉料理の提供を行っている。	地域の方に喜んでもらえることややりがいを感じ、協働する意義を感じた。もつと鹿肉料理や環境について勉強し、たくさんの方に伝えたいという意欲がわいた。鹿肉料理を味わってもらったことで鹿肉のイメージもよくなり、環境問題にも興味をもってもらった。	
19	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部	文化	サガノミノイチ —サガフリーマーケット— (大学を会場にしたアート・フリーマーケット企画)	京都嵯峨芸術大学フリマ実行委員会 (学生有志によるメンバー構成)	大学近隣エリアを中心とした右京区全体	学内フリーマーケットにおいて、学生だけでなく学外の出店者、来場者を募ることにより、本学と地域との交流を図ることを目的としている。また、学生と近隣住民の方々が直接関わりを持ち、刺激を与え合うことで、学生の創作意欲と積極性の向上を促す。さらに、子供も楽しめるイベントや、学外者との共同イベントを企画することにより、本学が誰でも気軽に寄れる開けた場所となるよう、これまで以上の規模にしていくことを目指している。	・広報物の制作(運営スタッフの募集ポスター、出店者と来場者の募集のフライヤー、そして場内マップの制作) ・広報(フリーマーケット情報登録サイトやツイッターを利用し、情報を提供。学内にポスター設置、フライヤーのポスティング。近隣施設へポスター貼り出しを依頼) ・企画運営(出店申し込みを電話で確認する、出店者のメールに対応する。学外者との共同イベントを企画する) ・会場設営(出店スペースの整備と会場の受付場所の設営)	イベント全体としては、近隣住民との関係が深まり、大学の存在を広い世代の方々を知っていただける機会となった。また、実行委員会の学生それぞれに自主性や行動力が芽生え、授業では学ぶことができないイベント運営という課外活動としての十分な効果と意味があった。	http://sac.kyoto-saga.ac.jp/?page_id=34
20	京都産業大学	産業・観光	京都・東山観光おもてなし隊	京都産業大学 経営学部 松高政ゼミ	京都市東山区	清水寺や祇園など、年間を通して国内外から多くの観光客が訪れる京都市東山区で、障がいの有無や年齢、言語の違いなどに関わらず、誰もが安心、安全、快適に観光を楽しんでいただける「ユニバーサルツーリズム」のまち・東山の実現を目指し、東山区との協働プロジェクト「京都・東山観光おもてなし隊」を設立。観光客等に対して親切できめ細かいサービスを提供するお店や施設等をつくるコミュニティを結成し、様々な形でのサポートに取り組んでいる。	店舗の外国語対応、哺乳瓶の温めなどの「おもてなし」対応についてホームページで紹介している。また、東山の観光地を実際に車いすで回り「東山車いす観光散策マップ」を制作したほか、食物アレルギーの方にも安心して食事が楽しめるお店を紹介する冊子「にっこり東山」の製作や、食物アレルギー対応のメニューの開発などの活動を行っている。	地域・行政・大学ぐるみでユニバーサルツーリズムをめざす取組が評価され、平成26年には、「国土交通省近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰」および「京都市 みやこユニバーサルデザイン大賞」を受賞した。	【ホームページ】 http://higashiyama-kanko.jp/community/ 【Twitter】 https://twitter.com/omotenasitai

【まちづくり事例集】活動事例紹介 大学別一覧

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
21 京都産業大学	産業・観光	「井手町イノベーション・チャレンジ事業」井手町応援隊	京都産業大学 経営学部 大西辰彦ゼミ	京都府綴喜郡井手町	井手町と京都産業大学相互の人的、物的、知的資源を活用し、地域社会の発展と人材の育成を図ることを目的とした地域包括協定に基づき、井手町における交流人口・定住人口の増加を目指し活動。井手町において「イノベーション・チャレンジ事業」として予算化されており、学生の取り組みが地域政策の一端を担っている。	地域の子どもたちが作った紙パックの燈籠や竹で作った燈籠を町の中心部に流れる「玉川」に設置する「井手みねーしょん」や、町内の飲食店をまわるスタンブラー「ハラペコランド」など、地域とともに町の魅力を広めるさまざまなイベントを企画・運営しているほか、民泊体験などを企画している。	町からは学生らしい発想や自由なアイデアで地域を盛り上げてほしいという町と、地域活性化に興味を持つ学生がともに活動することにより、自治体や企業、住民など多くの人を巻き込みながら地域活性化に取り組むことで、学生の成長と地域振興の相乗効果を生んでいる。	
22 京都女子大学	環境・エネルギー、景観、美化活動	空き家プロジェクト(空き家見守りボランティア)	家政学部生活造形学科	京都市東山区	東山区の高齢化に伴い、すぐには処分できない「空き家」となる家屋が増加傾向にある。「空き家」は、老朽化が早く進むことから、放置しておくとの安全・防犯上の問題が生じる。以上の背景をもとに、空き家の維持管理が難しい所有者にかわり、簡単な点検を行う空き家見守りの活動を自治体と協議しながら実施している。	所有する空き家の点検が困難な空き家所有者に代わって、学生たちが定期的に建物の簡単な点検(雨漏りによるシミの有無・水を流して錆の付着を調べる等)や通風(全室の窓や押入れを開け、通風・換気を行う)を行う。	制度ができるまで、地域をはじめ行政や専門家等大勢の関係者が関わっており、そのため、無料で提供できるサービスとなっている。ただし、2012年より「空き家見守り」申込を受け付けているが、実際に申し込みがあったのは、2015年度3件のみである。(実質的に2016年1月末からの活動となる)	京都女子大学地域連携研究センター-H.P. http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/shisetsu/chiiki/news/index.html
23 京都精華大学	文化	京北宇津ふれあい学びあい	京都精華大学 京北宇津 宝さがし会	京北宇津地域(京都市右京区)	初代学長の生誕地でもある宇津地域の住民からの高齢化・過疎化に対する不安の声に対し、教員が地域固有の農村の風景や生活様式、文化に象徴される地域のアイデンティティや文化資源を継承する意義を強く感じたため開始したプロジェクト。	地元の北山杉産業や宇津地域の自然環境に関するヒアリング調査のほか、伝統料理の講習会や昔から伝わる餅つき大会、伝統食や地元の木工品製作に関するワークショップ等を開催。他にも廃校となる小学校における資料のアーカイブ化や、地域のマップ作りを計画中。	ワークショップやイベントなどでの働きかけによって、学生を中心に幅広い世代の地域住民同士の交流が生まれた。今年で3年目となるが、徐々に活動範囲も多様なものとなり、学生と地域の方々との親交も深まっている。	京都精華大学 京北宇津 宝さがし会 http://seika-keihoku.com/
24 京都精華大学	文化	デザインストリートプロジェクト 2015 京都松原京極商店街×京都精華大学	京都精華大学 デザイン学部 ビジュアルデザイン学科	松原京極商店街(京都市下京区)	学生が授業で身につけた様々なデザイン手法を、地域活性化を図るために利用するプロジェクト。	松原京極商店街のシャッターが下ろされている店舗の前をお借りし、数日間、さまざまなアーティストが集まるイベントの実施や商店街の目玉商品を紹介する特設ブースを設置。学生チームが地域の方との交渉および調整、企画・広報・当日の運営まですべてを行う。	地域の方への聞き取りやイベント運営等の実践的な経験を通じて、参加学生がより具体的にソーシャルデザインの可能性について考え、将来取組む仕事として興味を持つようになった。	Design Street Project2015 http://designstreetproject.com/
25 京都聖母女学院短期教育	夏休みこどもお料理教室	夏休みこどもお料理教室	本学生活科学科食物栄養専攻	開催場所 本学調理室	地域の子供たちに料理の楽しさを教える機会を提供するとともに学生にとっては子供たちに料理指導する機会でもある。	地域の幼稚園児から小学校低学年の児童を公募して本学に招き、本学学生の指導の下、課題の料理を作って試食する。人数は制限されるが2回に分けて実施している。		http://www.seibo.ac.jp/news/index.php?c=news_view&pk=1436934846
26 京都聖母女学院短期教育	聖母こどもフェスティバル2016	聖母こどもフェスティバル2016	本学児童教育学科	開催場所 本学講堂兼体育館	地域の子供たちと触れ合いつつ、音楽劇やゲーム、工作体験等の遊びのブースを開放し、本学での教育の成果を発表する機会でもある。	地域の子供たちに参加を呼びかけ、音楽劇やゲームを行い、工作体験等のブースも企画するとともに、卒業作品展も同時に行い、本学の学生の取り組みを見ていただく機会となっている。		http://www.seibo.ac.jp/news/index.php?c=news_view&pk=1454911510
27 京都造形芸術大学	その他	まか通 -近代産業遺産アート再生プロジェクト-	まか通 -近代産業遺産アート再生プロジェクト-(京都造形芸術大学 多学科・多学年による公募)型プロジェクト	京都市東山区六原地域を中心とした東山区エリア	東山区六原学区を中心にまちに残された独自の文化・伝承・伝説を、アートの力でより多くの人々に知ってもらおうと2004年から活動しています。昔から住んでいた方や、新しく越してきた方々が、このまちの文化や歴史資源に誇りを持ってるように、また忘れ去られることのないように自分たちのまちを愛せるようなきっかけ(ことおこし)を目的として活動しています。	陶器人形、地獄絵解きなどの歴史資源を発見し、アートの力で再生してきました。またイベントやフィールドワーク調査などを通して、新たな観光資源の開発と、地域復興を目指し、まち独自の資源を使った新たな産業を生み出しまちに還元していくことを今年度からの目的としています。毎年活動報告として冊子『あなたのまちの愛し方』などを作成・発信しています。	まちにある歴史資源・文化の重要性や面白さに触れられるコンテンツを提供してきました。例えば陶器人形を子どもたちとつくるワークショップでは、楽しめたという声を多く聞け、祖母・母親の世代から、若い世代にまちの文化を知ってもらい、浸透させる一歩になりました。住民ではない立場だからこそ持てる発想や着眼点もあり、そのことが新たな産業の可能性を秘めていると実感できました。	http://maka2log.blog43.fc2.com/
28 京都橘大学	産業・観光	山科のまちづくりを行う団体が協同して活性化に取り組む活動ーやましな駅前陶灯路(とうとうろ)ー	主体は、やましな駅前陶灯路実行委員会。本学としては、地域連携センター、現代ビジネス学部が協力。	京都府京都市山科区、JR山科駅周辺	山科区は、商店街や伝統産業の生産団地、神社仏閣が混在しており、多くの地域資源に恵まれています。そのひとつである清水焼を用いて、山科のまちづくりを行う団体が灯りイベント「陶灯路」を行い、山科の魅力を発信しています。	京都山科清水焼団地で生産されている陶器を使用し、その器の中に水・切りガラス・ロウソクを順番に入れます(=陶灯器(とうとうろ)といいます)。そして、中のロウソクに火を付け、路のように並べることで、心安らぐ幻想的な空間を演出しています。	山科固有の伝統産業である清水焼などを用いることで、地域のイメージアップや地域資源を再確認する場となっています。また、本学の学生が運営スタッフとして地域の方々と連携することで、実践を通じた学びの場となっています。	おこしやすやましな協議会 http://www.okoshiyasu-yamashina.org/ekimaetoutou26.htm 京こよみ http://www.kyokanko.or.jp/kyogoyomi/10october/event-10october/21278
29 京都橘大学	保健・福祉・健康	団地の活性化を目指した取組	地域連携センター	醍醐中山団地(京都市伏見区)	地域関係の希薄化や団地の空き住居が問題となっている中で、学生と留学生がルームシェア形式で居住することにより、住民として団地の活動に参加するとともに、大学が団地内に地域と連携する拠点となる「地域連携センター」の分室を設置・運営し、高齢者や子育て世帯の支援等を行うことで、団地が活性化することを目的として活動しています。	筋トレ・脳トレイベント、地域住民に対する健康相談、シェアルーム居住の留学生が中心となり出身国や出身地域の紹介をする交流会、団地居住の高齢者を対象に学生によるクイズや寸劇およびお点前等を提供する敬老の日のお楽しみ会等のイベントを開催するほか、団地子ども会や防災イベントへの参加等を行っています。	学生主体の企画を団地自治会の協力により行うことにより、学生の表現能力やリーダーシップ力、社会人としての責任感などが向上しています。また、団地内で今までと違うイベントが増えたことにより今まで活動に参加しなかった住民も参加する機会が出てくるなど、地域の活性化の効果がつつあります。	京都橘大学 地域連携推進機構・地域連携センターFacebookページ https://www.facebook.com/1551267731820499/
30 京都橘大学	保健・福祉・健康	たちばな健やかクラブ	京都橘大学看護学部の教員および学生ボランティア	大学がある山科区内が活動エリアです。大学内の拠点スペース(現在整備中)および、山科区内の2か所のフリースペース(清水焼団地センター「みちくさの家」、山科区総合福祉会館2階)で活動しています。	本学看護学部の特徴は、地域住民との共生を教育基盤としていることです。その特徴を生かし、本学が位置している山科区を中心とした地域に暮らす様々な健康レベルの人を対象とした健康増進活動の展開を実施することとなりました。具体的には、大学内に拠点となるコミュニティ空間「たちばな健やかクラブ」を開設し、大学内、大学外での健康増進活動を実施していく予定です。	現在、大学内の拠点整備中であるため、主に、学外でのアウトリーチ活動を展開しています。「出張 たちばな健やかクラブ」として、山科区内の2か所のフリースペースで定期的に活動しています。身体計測、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定等の測定と健康相談等実施し、地域住民のニーズ把握や活動の周知を図っているところです。	これまで5回のアウトリーチ活動を実施しました。アンケート結果より、参加者は60-70代の女性が8割強を占めること、活動場所の近所(徒歩等で20分以内)の方が7割強でした。参加者と直接関わることで、自分の健康状態について、身近なところで気軽に見直す機会を求めていることがわかりました。また、参加者は高齢者が多いことから、骨密度、血管年齢等の関心が高かったです。	

【まちづくり事例集】活動事例紹介 大学別一覧

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト	
31	京都ノートルダム女子大学	教育	ノートルダム遊びプロジェクト「自然と遊ぼう！」 一親と子のための自然体験・造形活動プログラム	京都ノートルダム女子大学 心理	京都市内	乳幼児から小学低学年の子どもとその家族を対象にした子育て支援事業である。学生が自然をテーマに企画した観察・造形・実験を交えた遊びを通して、子どものみならず大人にとっても好奇心や創造力を育む場となり、活発な交流の場になることを目的としている。	春と秋の年2回、京都御苑の森や大学構内を会場にして、草木や動物の自然観察、落ち葉やどんぐりなど自然物を用いた造形やゲーム、顕微鏡での観察、光・風を体験する工作遊びや実験などを行っている。子どもだけでなく、大人も楽しめるプログラムで、学生がプログラムを企画・準備し、当日は参加者をサポートする。	子どもへの自然体験教育というだけでなく、大人も子ども目線で遊び、親子がゆっくり楽しむ機会であり、リピーターも多く好評である。学生は企画力や社会性を習得しつつ、子どもの発達を学ぶチャンスとなっている。通算回数も20回近くなっているので、「自然」をより多様に捉えて、新しい面白さを発信できるようなプログラムの工夫をしていきたい。	直近開催時の案内サイト http://www.notredame.ac.jp/course/psychology/news/2015/news20151014_1/news20151014_1.html
32	京都文教大学	その他	地域に根ざし、地域に学び、地域の課題解決を目指す学生たちの自主的な取組	京都文教大学 地域連携学生プロジェクト	京都府宇治市／京都府京都市伏見区(向島)	文部科学省2007年度、特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に採択された取組では、多くの学生が参加し、継続的に取組んできた教育プログラムとしての地域貢献活動が非常に高く評価されました。その取組を継続・発展させ、地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献と大学での学びを両立させる場として、学部、学科を越え、学生たちが自主的な取組を進めています。	2015年度は、宇治や伏見区を拠点とした4プロジェクト(継続2件、新規2件)が採択され、商店街の活性化やニュータウンの高齢化問題、宇治茶の魅力発信、新しいコンテンツによる宇治の観光振興などのテーマで、行政や商店街、NPOなどと連携した取組を行っています。	継続した取組を行うプロジェクトでは、開催するイベントも地域に定着してきており、子どもを中心に人気があることから、行政や関係先から継続的な開催を希望する声も毎年あがります。また、プロジェクト活動を通して学生たちは、企画力や実行力にも自信が付き、その後の就職活動などにも活かせるケースも多くなります。	https://www.kbu.ac.jp/kbu/campuslife/project.html (本学HP／キャンパスライフ／プロジェクト活動)
33	京都文教大学	教育	MJ学習会：京都市伏見区の向島ニュータウンでの小学生を対象とした学習支援	文教ストリート	京都文教マイタウン向島(京都市伏見区向島ニュータウンセンター商店街内)	近年、向島ニュータウンでは共働き世帯やひとり親世帯が急増している。児童生徒が学校から帰宅しても、保護者が不在のため、ひとりで過ごすケースや路上で子どもたちが夕方・夜までたむろしている姿を多く見受けられている。そのような現状に対し、子どもたちの健やかな成長のため、放課後の居場所づくりが地域から求められている。	2014年4月から実施。民生児童委員と協力し、週に1回、放課後の時間に居場所づくり事業に取組んでいる。主に、大学生が子どもたちへ学習支援を行い、宿題等を子どもたち自ら取組めるようサポートをしている。その後、子どもたちとあそびの時間を設け、交流を図っている。	当初は数人の参加者であったが、現在は約30名以上の子どもたちが参加し、非常にニーズが高いものと思われる。継続して参加する子どもが多く、家庭や小学校とは違う、サードプレイスがあることは子どもたちにとっても安心感があるように見受けられる。居場所事業は地域からは求められているが、本取組を継続できる支援が必要である。	
34	京都文教大学	教育	地域と出会い、地域に学び、地域課題を解決するプロジェクト科目(地域)	プロジェクト科目(地域)	宇治市や京都市伏見区などの京都府南部を中心とした地域	今、日本が直面している少子高齢化などの課題解決にあたっていくためには、この課題の最も近くにいる地域住民が自治体等と協力し、解決にあたっていく必要があります。そのために、まず大学近隣等での学外授業やフィールドワークを通して地域と出会い、地域を知り、様々な地域課題の解決を行うことを目的としている授業です。またこれをきっかけに地域に貢献できる人材となることを目標としています。	年間約10クラス程度が行政や地域に根ざした企業・団体等と連携し、地域課題を解決します。具体例として、小学生と協働で地域課題を取材し、新聞記事にまとめ、NPOなどに課題解決提案を行うクラス、地域の民生委員と協働で災害発生時に地域社会や学生ができることを提言するクラス、地産地消をテーマにランチメニューを考案し、商品化を行うクラスなどがあります。	PBL型の授業であるという授業の特徴と、また地域で行う活動という2つの側面を通して、「主体性」「発信力」「課題発見力」「実行力」が成長する受講生が多数です。 また、地域課題の解決、解決提案を行う中で、災害発生時に要援者をサポートする啓発カードを考案し、実際運用を検討しているなど、地域に根差す活動であり、且つ地域を動かす活動に発展しているプロジェクト活動もあります。	http://www.kbu.ac.jp/kbu/tomoi-center/education/training.html (本学 地域協働研究教育センターHP／教育)
35	京都文教短期大学	産業・観光	京都文教短期大学×南山城村「むらふんど」プロジェクト ※むらふんど・・・南山城村特有の気候・土壌条件の中で栽培された農作物を使って作る付加価値のついた商品やレシピのこと(風土×Food)	京都文教短期大学 食物栄養学科 食ビジネスクラス	京都府南山城村	平成29年春にオープンする南山城村「道の駅」での販売を目指して、京都文教短期大学食物栄養学科と南山城村の加工組織等が連携し、正課授業の一貫として村の農産物や伝統食を活かした特産品「むらふんど」の開発に取り組み、学生が村に提案している。京都府山崎広域振興局とも連携し、三者協同で取り組んでいる。	食物栄養学科2回生後期に開講している食ビジネスコースの「卒業研究」においてPBL型授業として調理実習および演習形式で取り組んでいる。 村を視察訪問し、役場や村の方々から村の背景について聞き、班ごとに商品の試作を行う。村の方々との中間試食報告会を経て、さらに改良を加え、最終試作品を村に提案する。	PBL型連携授業にしたことにより、学生が主体的、能動的に行動するようになった。村の方々の要望や思い、村の歴史や風土を理解し、商品開発に取り入れるなど創造力、計画力、実行力、傾聴力、チームワーク等発揮し、これまで学んだ栄養士課程の技術や知識を統合して商品開発に取り組むことで実践力を身に付けることが出来た。	
36	京都文教短期大学	保健・福祉・健康	糖尿病予防メニューの考案と提供	京都文教短期大学 食物栄養学科	京都府宇治市	専門科目「生活習慣病予防の食育実習」にて、生活習慣病予防に効果的な献立作成と調理について実習を通して学んでいる。そこでこれまでの授業(実習)で獲得した知識や技術を統合し、栄養士としての実践力をより高めるため、また食生活の面から宇治市民の食育や健康増進に寄与し、地域へ貢献することを目的とするため。	平成27年3月に策定された「宇治市健康づくり・食育推進計画」の生活習慣病の発病予防と重症化予防に着目し、「糖尿病予防メニュー」を考案。 宇治市保健推進課および株式会社典座と協働し、市役所内食堂にて市民向けに販売すると同時に、学生手作りのPOP、チラシ、ポスター等で予防啓発活動とアンケート調査を実施した。	宇治市が重点課題として捉えている「生活習慣病予防」を課題とすることで、学生がこれまで学んだ栄養士課程の技術や知識を統合して、主体的に取り組むことができた。班ごとにメニュー考案をする中で、創造力、計画力、実行力、傾聴力、チームワーク等発揮し、同時に実践力や課題解決力等を総合的に身に付けることができた。	
37	京都文教短期大学	保健・福祉・健康	京都文教大学・京都文教短期大学 子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」での取り組み	京都文教大学・京都文教短期大学	京都文教短期大学	子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」は、これまで幼児教育や保育士・栄養士の育成を地域で展開し、すぐれた人材を輩出してきた京都文教短期大学の実績や、地域住民からの大学内に居場所をとる要望をもとに、開学50周年を記念した新学舎「月照館」内に平成22年9月に開設。地域に根ざした子育て支援と学生・教職員の教育、教育実践や実習・研修・研究を行うことを目的とした施設です。	宇治市から地域子育て支援拠点ひろば事業の委託を受けた地元の特定非営利活動法人「まきしま絆の会」と協働して運営。月・火・木・金曜日は「まきしま絆の会」、水曜日は短期大学が担当。子育て親子のための「居場所」として、地域を中心に幅広く市民に開放。幼児教育を学ぶ学生を中心に日頃の学習成果をもとにした交流・ふれあいや、教職員による研究・実践の場となっている。	地元の子育て世代の新しい居場所としての役割だけでなく、学生の学びの場、教職員の研究・実践の場としての役割を果たしており、親子同士、学生、教職員相互の新しい交流の場となっている。大学のキャンパス内で安全・安心に過ごすことができる子育て支援ひろばとして年間1万人近い利用者がある。キャンパス内で親子に話しかける学生の姿が多く見かけられるようになった。	http://www.kbu.ac.jp/kbu/monikoniko/index.html
38	京都薬科大学	教育	山科理科実験講座	学生実習支援センター	京都市山科区	小学生の理科への興味を高めるきっかけづくりのため、「理科実験講座」を地域の市民組織「山科人づくりネットワーク実行委員会」と協働して開催している。山科区内の全13小学校に案内し、毎年約120名が参加。半数以上は2回目以上の参加者と、地元でも人気のイベントとして定着している。	本学の学生実習支援センター教員が実験内容を企画し、地域の市民組織「山科人づくりネットワーク実行委員会」がボランティアで参画している。生活の中にある身近な科学を題材にしており、大学の実験室という高度な設備を利用することで科学者としての雰囲気や味わうことができ、家庭でも実験ができるよう実験材料を持ち帰れるようにしている。	運営スタッフ向けに事前ワークショップを開催するなど、地域の大人が子ども達の育成に積極的に関わっていただけるよう取り組み、地域、行政、大学の協働体制が構築されている。 ・平成24～26年度「山科区きずな支援事業」認定 ・平成26年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰 ・平成27年度「きょうと地域力アップ貢献事業者」表彰	高等教育イベントナビ 教まちや > 教まちや News http://henews.consortium.or.jp/report/detail/xdxt2ir1
39	種智院大学	保健・福祉・健康	高齢者サロン・子育てサロンへの参画	社会福祉学科	伏見区向島南学区	学区社協からの協力要請により活動を開始した。地域貢献と学生への教育効果という二つの観点から活動を行っている。地域貢献については、高齢者中心で行っているサロン活動へ若い世代が参加することへの期待に応える意味合いがある。教育効果については大学における福祉の学びを実践で発揮できる場として考えている。	学区社協が行っている高齢者サロンや子育てサロンへ参加。高齢者サロンでは配膳やレクリエーションの手伝い、お茶を飲みながらの歓談を行っている。子育てサロンでは制作遊びや手遊びなどの手伝い、参加者(親と子ども)との交流を行っている。	地域貢献の観点からは、若い世代が参加することで特に高齢者サロンが活性化されたという意見が学区社協から出された。教育効果の観点からは、あまり交流することがない高齢者や子どもと関わることで自分たちの学び、特に話をするスキルを見直すことができた。また、サロンに参加している他の団体・組織との関わりもできた。	
40	成美大学・成美大学短期大学部	産業・観光	まち元気プロジェクト 「AR(Augmented Reality)を利用した地域活性化-センチメンタル価値再生に向けて-」	成美大学経営情報学部(専門研究Aゼミ)	京都府福知山市及びその周辺市町村の商店街	福知山市の商店街は、少子高齢化等の影響から衰退しているが、学生自身も商店街で買い物をするだけでなく、地域の諸問題にそれ程興味を持っていなかった。一方で、自分たちの暮らす町が元気であってほしいという思いもあった。そこで、ゼミで議論を重ねていき、地域への愛着が地域の個性を育み、その個性を保存するという「センチメンタル価値」に着目し、この価値の再生に向けて調査・企画という活動をしている。	・商店街調査(福知山市、宮津市、綾部市) 元気な店はどのような商品を販売しているのか、販売方法はどうか。商店街としてどのような取組みがあるのか等々。まずは学生自身で調査を実施。 ・AR(Augmented Reality)を利用したスカベンジャーハントで地域活性化の企画 「福知山市の御霊神社ゆかりの槍が盗まれ、奪い返してきてほしい!」というゲーム上のキャラクターから依頼を受けた参加者が、各店に張られたポスターからタブレット端末で得た情報に従い、各商店街を巡りながら槍を取り返すというゲームを企画中。	各地の商店街調査やヒヤリングをする中で、衰退しているように見える商店街の中にも新規に開業する店舗が生まれていること。フェアトレードや地元産品にこだわった商品づくり、コミュニティ維持・強化を目指した店舗経営など地域の商店がもつ多様な側面、言い換えれば、地域の持つ意味や力を発見できた。地域活性化策は、未だ企画中であるが、今後、商店の皆さんと協力しながら実現に向けて取組を進めたい。	

【まちづくり事例集】活動事例紹介 大学別一覧

	大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
41	成美大学・成美大学短期大学部	産業・観光	地域課題解決に向けた実態調査「豊岡市城崎温泉町観光資源調査を基にインバウンド対応についての調査研究」	成美大学「地域観光論&国際観光論」合同チーム	兵庫県豊岡市城崎温泉町、朝来町(竹田城)、養父市(明延鉱山道) 京都府福知山市、舞鶴市、宮津市	超高齢社会を迎える日本では、地方都市に於いて人口減少、高齢化率がすみ地域に残る素晴らしい文化や歴史伝承の担い手が乏しく、消滅の危機に瀕している。その中で、学生と共に地域の課題点を地域の方々と共に掘り起こし、持続可能な観光振興策を模索して行く。学生にとっては、見知らぬ大人へのアプローチの方法や報告書等のまとめ方、プレゼンテーション能力の向上等、社会人になる為の力を付ける方策となる。	近年急増するインバウンド観光で、東京・京都・大阪のゴールデンルート以外の地方都市でのインバウンド観光への取り組みを調査して、大学周辺の北近畿地域に適したインバウンド観光振興策を探る。2013年より、豊岡市城崎温泉町に着目して、矢鳥研究ゼミでの「冬の豊岡・城崎温泉+α」の旅行企画提案や、2015年度には「城崎温泉周辺観光施設調査」等を行っている。	学生たちは、クラブ活動や授業の単位取得、アルバイト等でまたたく間に4年間が過ぎて行く。若者らしい感性や機動力を活かす場所として、自然に恵まれた地域にある本校は、フィールドワークの場所には恵まれている。この環境を活かして、親や教師以外の地域住民と直接触れ合い、協働して調査・研究し、自分の頭で考え課題解決を試みることは、学生に大きな成長を促すことを実感した。	http://uv.seibi-gakuen.ac.jp/
42	成美大学・成美大学短期大学部	産業・観光	やくの道の駅「農匠の郷」との連携プロジェクト	卒業研究(4年生ゼミ)	京都府福知山市 やくの道の駅「農匠の郷」	①活動の目的 PBL(課題達成型学習)による4年生卒業研究ゼミ生への教育 ②活動の背景やニーズ 現在、利用者が少なくなっている地方の道の駅の活性化案の提案を行う。	まず、対象とする道の駅の外部環境の調査をし、次に施設の管理者へのヒアリングを行い課題の抽出を行っている。そして、ARを用いた既存MAPの改良という課題解決の提案を行い、実践を行った。	地方の小規模企業の現状の理解。 発表を通して身に付けたプレゼンテーション能力の向上。	http://uv.seibi-gakuen.ac.jp/
43	同志社大学	文化	寒梅館夏まつり	主催:同志社大学(学生支援センター) 協力:上京区役所	寒梅館	2006年度よりスタートしたこの取り組みでは、大学の地域開放を目指すとともに、小学生と大学生の「心の通い合い」を通じて、双方の成長の場になることが期待されています。	「寒梅館夏まつり」では、今出川校地寒梅館のホールやアトリウム、リーディングスペースを開放し、小学生を対象とした茶道体験や音楽演奏、鉄道模型走行など、大学生による多彩なイベントを実施しています。	地域の子どもたちと交流することで、大学生と子どもたち双方の成長が見られただけでなく、地域との信頼関係の構築にも繋がりました。上京区役所とも継続して連携を深め、今後もより良い企画を目指していきます。	http://www.doshisha.ac.jp/students/s_support/extra_program/sum_fes.html
44	同志社女子大学	教育	現代こども学科 学生プロジェクト「こどバ」	現代社会学部 現代こども学科	同志社女子大学 京田辺キャンパス 京田辺市	地域の子どもたちに出会いと交流、学べる場を提供することにより、子どもたちが新しい世界を知る楽しさや自身の成長を感じてもらうために開催している。また、学生が主体となって企画・運営することにより、将来、教員や保育士、子ども産業など子どもに関連する進路を希望する学生の学びに役立て、意欲向上へとつなげる目的がある。	現代こども学科1年次生から3年次生が約1年をかけて、募集から実施まで京田辺市教育委員会や京田辺市各小学校との連携を取りながら、プロジェクトの企画・運営を行う。 2015年度実績:京田辺の特産「玉露」を使ったお菓子づくり、コマ撮りアニメーションづくり等	普段の学校生活では経験できないことを体験することで学ぶ楽しさを感じ、他校の児童や大学生との交流を通して子どもたちの成長と自信につながっている。学生にとっては、学びの成果を発揮するだけでなく、創造力やコミュニケーション力など社会人基礎力を身につける場となっている。	
45	佛教大学	安心安全(防災・防火・災害対策、交通安全)	地域防災を考える学生サークル活動	学生消防・防災サークル「佛教大学FAST」※Fire and Safety Teamの略	京都府 京都市 北区・中京区を中心に活動	地域防災の担い手である消防団の若手団員が不足する中、将来の地域防災人材を育成することを目的に、京都府消防安全課の協力のもと結成された、学生による消防防災サークル。「京都市北消防団・薬只分団」との防火・防災パトロールや災害ボランティアセンター運営訓練への参加などの活動を行っている。	キャンパス周辺の地域防災のため、地元の薬只消防分団と一緒に、京都市無火災推進日の毎月2回、防火パトロールとして地域内を巡回して「火の用心」を呼びかけている。また、毎月1回のサークルミーティングを行い活動計画について学生や大学関係者だけでなく、行政職員や地域自治会の方とも意見交換しながら議論している。	学生が地域防災の重要性や社会貢献に興味関心を持つきっかけとなったこと。大学周辺地域をベースにした、地域の方々との地道な活動によって得た経験を通じ、将来の地域防災人材となることが期待される。現在では、京都市の学生消防団員として本学学生18名が活動しており、今後の継続的な活動と更なる活躍が期待される。	http://www.bukkyo-u.ac.jp/news/index/institution/
46	佛教大学	保健・福祉・健康	紫野へいこう～一人暮らし高齢者とともに地域を盛り上げる!	地域福祉フィールドワーク事業(社会学部学生・福祉教育開発センター)	京都市北区紫野学区	高齢化率の高い紫野学区において、一人暮らし高齢者の組織化(居場所・生きがい・繋がりがづくり)をめざし、紫野学区社会福祉協議会・地域活動団体・本学の学生団体等が一体となって、一人暮らし高齢者を中心としたグループ「パープルフレンズ」を結成。高齢者の方々地域で自分らしく暮らすための実践に取り組んでいる。	学生やパープルフレンズと一緒に作詞・作曲を行い、CDを発行、紫野まつりや他地域への歌謡巡業も行っている。また、隔週で誰もが集える喫茶「カフェ紫野」を運営し、気軽に集える場づくりも行っている。「学まちコラボ事業(2014)」の最優秀賞受賞。	一人暮らし高齢者のひきこもりや孤独死といった問題が社会的に深刻化する中、この取組での「高齢者の活躍できる機会」が、高齢者の積極姿勢を生み出した。高齢者が守られる立場から、自らの「役割」を発見し地域で役立とうと行動を起こす主体形成の流れと、それを地域全体で包摂していこうという試みは注目すべき点である。	
47	佛教大学	教育	地域の子育てに寄り添う「子育て支援」	地域福祉フィールドワーク事業(社会学部)	京都市北区	待機児童解消に向け、即戦力を持つ保育士等有資格者の輩出が急務である一方、少子化や社会環境の変化で、学生が乳幼児と関わった経験が少なくなっている。このため、近隣保育園での子育て支援を援助・参加することで、実習の前に子ども理解と保護者理解を学生が主体的に深めることができる。	月2回、保育園で行っている「子育てサロン」に学生が参加し、保育補助を行っている。学生は子どもと遊び、手遊びや絵本の読み聞かせを行う。保育士が保護者の相談を受けている姿に接し、その後、保育士から相談援助について学ぶことができる。	この活動に参加した学生は、子ども理解と保護者理解を深めることができ、参加学生の90%が福祉・教育専門職の道に進んでいる。また、子育てサロンなどの保育園児以外を対象とする事業へのボランティア参加は実施する保育園に好感をもって受け入れられている。	
48	平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部	産業・観光	観光および地域に還元する「もてなし」の提供	課外活動「レセプションクラブ」	京都市内全域、地下鉄の駅や周辺	正課外活動で学習した「おもてなし」の学びを、イベントや啓発活動、学会のサポートなどで実践的に発揮し、経験知によるマニュアルを越えた対応の体得を図ることを目的としている。	京都市交通局との「観光及び公共交通の振興に関する協定」の一環として「一日学生駅長」やイベントの司会者、JR東海主催で上賀茂神社にて実施される音楽コンサート、京都府環境衛生旅館組合全国大会の受付・案内業務など多数。	学生にとって本活動で実施する接遇対応は「画一的なイメージ」を伴っていることは否めないが、実際の接遇対応を経験することによって、対応の多様性や価値の理解につながっている。また、活動を通して、地域住民や内外の観光客と交流を持つ機会ができ、多文化共生への理解も期待されると考える。	
49	平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部	産業・観光	京都市交通局との地域連携活動～地下鉄駅周辺紹介FP「きゅんきゅんKYOTO」作成を中心に	国際観光学部1・2年の学生1・2年の必修科目「ジェネリックスキル」I～IVで取り組んでいる	京都市内の市営地下鉄駅周辺にて取材活動を行う。また大学の授業において活動。	地下鉄駅周辺の地域資源・観光資源の発見・紹介を通して、公共交通の利用向上・促進につなげる。また地下鉄駅周辺の活性化に寄与する。こうした活動を通して、学生に「まちづくり」「着地型観光」「地域の持続可能性」などについて学ばせる。	2015年3月に、地下鉄利用の促進や地域活性化に関わる活動等に共に取り組んでいくという内容の協定を、京都市交通局と調印。地下鉄の駅毎に駅周辺の見どころ・お店などを学生の視点で紹介するフリーペーパー「きゅんきゅんKYOTO」を作成する。ジェネリックスキルの授業で1・2年生が取材・執筆を行い、7月に創刊号となる「丸太町駅あたり」を発行(その後、第5号までを発行。今年度中に第6号までを発行予定)。また7月22日は、京都駅の地下で、学生が企画した創刊記念イベントも開催した。	・学生に、身近なところに新しい町の魅力、観光資源が潜んでいることを理解してもらうことが出来た。また、女子大生の視点で地下鉄駅周辺の見どころを紹介する取り組みが新しく、またFPの作成だけでなく配布イベントを運動して行うなどしたため、メディアでも報道されるなどの注目を集めることが出来た。 ・課題として、刊行日程がタイトで、学生の作業がたいへん。ここは、工夫が必要。また観光の学びとの関係を、もうすこししっかり学生に理解させる必要があると思う。	
50	立命館大学	文化	京都の魅力や地域の内外発信(京都歴史回廊協議会)	京都歴史回廊協議会(事務局:立命館大学社会連携課):京都市北西部エリアの一般市民・寺社・芸術家・商店主・大学が参加し、2005年に設立。	京都市北西部エリア	京都歴史回廊協議会は、地域の活性化やまちづくりを担う人材育成のほか、多様な文化事業を産・官・学・地が連携しながら展開しています。有形・無形の恵まれた世界遺産や文化的・歴史的遺産を保全、活用するため、それらを「回廊」として結び「面」として捉えることによって、多くの人に京都の魅力や魅力をさらに広める事業の実践に取り組んでいます。	大学との連携企画「京都学セミナー」、文化体験型のシリーズ「歴史回廊を極める」、地域を巡る「歴史回廊ウォーク」、子ども対象事業である「坐禅体験・灯笼絵付」「伝統工芸に学ぶ ものづくり体験」「子どもウォーク」「子どもスケッチ教室」などの活動を行っています。		http://www.kairou.org

【まちづくり事例集】活動事例紹介 大学別一覧

	大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
51	立命館大学	文化	明日の京都 文化遺産プラットフォーム京都の文化遺産との連携、人材育成	明日の京都 文化遺産プラットフォーム(事務局:立命館大学社会連携部社会連携課)		京都に在る有形・無形の文化遺産を毀損することなく後世に継承することを目的とし、文化遺産の所有者、伝統文化・伝統芸能の継承者、研究者、行政、地域コミュニティが連携して活動する場(プラットフォーム)を提供しています。	テーマごとに6つの部会を構成して事業を展開しており、立命館大学は事務局として活動に参加しています。主な事業は、京都の世界遺産所有者が一堂に会し、共通の課題について情報共有を行う「古都京都の文化財」ネットワーク会議、世界遺産所有者による連続講座、文化遺産研究者による定期報告会、子どもの体験学習、無形文化遺産シンポジウム、年1回のフォーラムなどがあります。	近年は、企業と連携したアーカイブ事業、大学コンソーシアム京都と連携し、世界遺産をフィールドとした大学生向けの教育プログラム(正課)の開発なども進めています。	
52	立命館大学	文化	立命館土曜講座	立命館大学衣笠総合研究機構(事務局:衣笠リサーチオフィス)	立命館大学衣笠キャンパス	立命館土曜講座は、当時の学長であった故末川博名誉総長が「学問や科学は国民大衆の利益 や人権を守るためにあること、学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」であると提唱し、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指して設けられました。	戦後の1946年3月31日に、末川博教授の「労働組合法について」と題する第1回の講座が開催され以降、半世紀以上続けられており、「開かれたアカデミズム」を実践的に追求しています。また、学問の動向や各分野の研究結果の紹介、古典や名著の解説、また時代を先取りしたテーマ設定をするなど、大学の学問を市民に開放する、という目的にふさわしい多彩な内容を取り上げています。		http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/contact.html
53	龍谷大学・龍谷大学短期大学部	産業・観光	伏見稲荷大社周辺の観光客マナーの向上と地域の理解促進	法学部法律学科牛尾洋也ゼミ	京都市伏見区(伏見稲荷大社周辺)	伏見稲荷大社は近年、外国人観光客を中心に大変人気があり、毎年多くの観光客が訪れている。一方、その急激な人気の高まりに対して、周辺地域の住民は戸惑いも多く、観光客のマナーの向上と地域住民の理解を促すことを目的として活動している。	各種海外メディアの注目により観光地としての人気は急上昇している伏見稲荷大社周辺地域住民の理解と観光客マナーの向上を目指した活動を行っている。	国や京都市の観光政策を分析、伏見稲荷大社周辺での観光客や住民へのアンケートを行い、その結果を基に、地域住民との意見交換を行った。	作成中
54	龍谷大学・龍谷大学短期大学部	教育	深草地区の子どもたちへの学習支援プロジェクト「京町家学習会」	文学部哲学科教育学専攻林美輝ゼミ	京都市伏見区深草地区	本プロジェクトは、(公財)京都市ユースサービス協会、深草福祉事務所との連携の下で、本学文学部哲学科教育学専攻の学生が地域の子供たちに対して、無償で勉強を教えるものです。家庭の事情による教育格差を断ち切ることで、子供たちの明るい未来に繋げることを目的として活動しています。	教育学専攻の学生が、主に高校進学を目指す中学3年生を対象に深草町家キャンパスにて学習の支援活動を定期的(毎週火曜日)に行っています。単に勉強のサポートだけではなく、一緒に料理をする等、人々との交流イベントを通じて、人間的な成長支援も行っています。	今年度からの活動のため具体的な成果はこれからであるが、子供たちの将来の夢を育むと共に、学習意欲向上を見込んでいる。また教育の現場を経験することで、学生の専門性の向上も期待できます。	作成中
55	龍谷大学・龍谷大学短期大学部	産業・観光	スポーツ×伝統産業による地域活性化	経営学部スポーツサイエンスコース松永敬子ゼミ	京都市、東日本大震災被災地	京都マラソンで京都の伝統産業(工芸品)を身に付けて走ってもらうことで京都伝統産業を全国にPRすることで、京都の伝統産業を見直してもらう。またその売上げを寄付金とするのではなく、ゼミで行う東日本大震災復興支援活動の原資として活用する。	京都念珠製造販売事業協同組合と連携し、地域の子供達と京都念珠プレスレットを製作。それを京都マラソン会場にて販売し、ランナーに身に付けて走ってもらうことにより京都の伝統産業をPRする。またその売上げをゼミ生が行う東日本大震災復興支援活動資金として活用している。	全国規模の市民スポーツイベントで伝統産業をPRすることで「本物」の良さを知ってもらうことができた。スポーツを通じた地域貢献を専門とするゼミ生の専門性を高めると共に、東日本大震災の被害を風化させない意識を植え付けることができた。	作成中